2019年5月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第508号

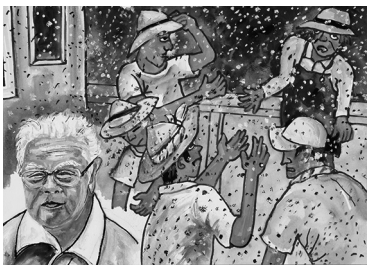
地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

「反原発」本　出版続く
権力に牙むく高知の人たち
「闘いは燎原の火」

文／足羽潔＝元・高知新聞記者、元・全国新聞社出版協議会代表幹事



高知県内の元教員グループが制作を続けている「ビキニ水爆実験」
被ばく紙芝居の惨状を伝える紙芝居絵画（森本忠彦絵）

「３・１１」からもう８年。あの惨劇のシーンを思い起こすとき、私たちは何をしてきたのか、何をしていくべきかの問いかけが自分自身の中に渦巻く。

元首相・小泉純一郎が「原発推進」から「原発ゼロ」の主張に態度を切り替えて以来、「原発ゼロ」の声は一気に日本中を席巻するのかの期待感もあったが、自民党を支える保守層の厚さの前に、行く手を阻まれている。しかし、少なくとも高知県では「反原発の闘いの炎を消してはならない」との叫びが消えない。ここ数年でも「反原発」を訴える書籍の出版が続いているのだ。

「書籍」はいずれも自費出版で▼島岡幹夫著「生きる」（２０１４年）▼脱原発を考える四万十・高知会議編「フクシマそしてクボカワ」（２０１４年）▼太平洋核被災支援センター編「ビキニ核被災ノート」（２０１７年）▼岡村啓佐写真・著「ＮＯＮＵＫＥＳ～ビキニの海は忘れない」（２０１８年）

原発を止めた男

「3・11」直後から、「原発を止めた男」として「かがり火」や「東京新聞」など多くのメディアに取り上げられたのが高知県窪川町（現・四万十町）の島岡幹夫だ。昭和40年代から50年代にかけた原発誘致のうねりの中で、高知県でも窪川町海岸部に誘致計画が進められ、窪川町では血を血で洗うような10年戦争が演じられた。その闘いの反対派のリーダーとして生き抜いたのが島岡。島岡は反原発の対立軸に「農業」を置き、たとえば無農薬農業に私たちが生きるすべを実践しながら、座標軸を示した。

「反原発を唱えるオレたちが左手に農薬を持つのか」と語る島岡の「哲学」に魅せられた人々は数多い。島岡がもっとも意欲的に取り組んだものが「無農薬有機野菜栽培」だ。妻、和子は言う。「無農薬野菜とは水と空気と太陽をいっぱいに吸い込んだもの。無農薬野菜の栽培は自分の子どもを育てることと同じです。農家というのはね、１２月３１日に皆そろって健康であれば、農協の通帳は赤字であっても黒字です」「せめて心豊かに安全なものを食べて生こう」（１９８８年＝昭和６３年１月３日付　高知新聞連載「虫たちからの警鐘」）。

島岡たちが玄海原発視察に出かけたときの話だ。旅路、美しくも素晴らしい一面黄色の大豆畑を見つけ、島岡は叫んだ。「バスを停めろ」。以来、大豆生産を減反作物として農業の主役に取り込んだ。その大豆は妻の和子たちの手で、豆腐、納豆に姿を変えた。今風に言えば６次産業化のスタートでもあった。

窪川の反原発闘争は国と地方の政治闘争でもあった。四万十川沿いに窪川と愛媛県宇和島市を結ぶ予土線（伊予と土佐）は過疎鉄路ゆえの廃止論議が浮上していた。原発推進派のリーダー藤戸進町長の解職騒動阻止に高知入りした自民党幹事長の桜内義雄は「窪川原発をすすめてくれたら予土線を残す」とさえ言い切った。（町長の解職は成立も出直し町長選挙で藤戸進は再び当選）

島岡と共に戦う仲間たちはこんなプラカードをつくって桜内の眼前に差し出した。庭師の格言「桜切るばか、梅切らぬばか」をもじった「桜見るばか、藤切らぬばか」。桜内は激怒した。

後に、高知新聞東京支社勤務で自民党を訪れた高知新聞記者の鍋島康夫は「高知はゼニがいらないのかと随分、皮肉られた」と述懐する。

島岡の記した「生きる」は１０年戦争とも言われる窪川の反原発闘争のすべてがわかる一冊でもある。

「生きる」を補完するものとしては明治学院大学の猪瀬浩平の記した「むらと原発～国策をはね返した知恵に学ぶ」（農文協、２０１４年）も、島岡と窪川の闘い模様をテーマにしている。

３・１１当時、四万十川河口の文教の町、土佐の京都と形容される四万十市（旧中村市）の市長だった田中全は「脱原発をめざす高知県首長会議」を立ち上げ、シンポジウム「フクシマそしてクボカワ」を開催、その概略をまとめたブックレットを出版した。

シンポジウムには元・東海村村長の村

上達也を招き、その講演「原発事故からみえたこの国のかたち」も収載した。原発関連用語解説もきちんと行い、薄くてもハイレベルな一冊だ。

ビキニ水爆実験への挑戦、紙芝居も

「ビキニ水爆実験」の実相は戦後史の深い闇に葬り去られていた。「ビキニ水爆実験」の被災者の地獄の苦しみを拾い集め、公にしたのは高知県の高校生サークル・幡多ゼミナール。その記録をベースに太平洋核被災支援センターは「ビキニ核被災ノート～隠された60年の真実を追う」と題した証言集を出版した。同時に被災者への国家賠償訴訟に踏み切った。

訴訟は２０１８年７月の高知地裁判決で敗訴になったが、被災者の救済義務が行政にあることを明確にした。現在、高松高裁で審理中。

こうした動きを踏まえ、太平洋核被災救援センターのリーダーの１人である岡村啓佐は証言集を補完して、なお、被災者、あるいは残された遺族の苦悩と怒りを写真で表現した「ＮＯＮＵＫＥＳ～ビキニの海はわすれない」を出版した。札幌市のデザイナー、江畑菜恵が用いて仕上げたダブルトーンの写真が重厚さを増す。

『ＮＯ　ＮＵＫＥＳ　ビキニの海は忘れない』岡村啓佐著／本体2,000円　販売＝高知新聞総合印刷　ISBN9784906910809

「ＮＯＮＵＫＥＳ」は証言をすべて英訳した。「ビキニ水爆」の実相を世界へ発信したいという思いからだ。大学生や大学研究者、マスコミ関係者らが英訳にボランティア参加した。

吉永小百合の「世界中の人たちに見て頂きたい作品です。核兵器の廃絶を実現させるためにも」の帯文や発刊に寄せた激例文もＩＣＡＮ国際運営委員・川崎哲や高知県知事・尾崎正直の激励と共に支援の広がりを示す。

運動を受けて、高知県は２０１９年度予算にビキニ環礁水爆実験被災者救済に関する事業として救済・調査研究・伝承を目的とした２７０万円を計上した。画期的でもある、

加えて、驚くことに「ＮＯＮＵＫＥＳ」は、大きなバトンになっていく。高知県内の元教員らがこのビキニ水爆実験を紙芝居で子どもたちに伝えようと、制作を始めたのだ。

３月末までに絵画もできあがり、完成間近。絵を描いたのは高知県展理事長でもある森本忠彦。ここにもスクラムの大きさがうかがえる。森本は言う。

「子どもたちに伝えるべきものが何か。それをきちんと正しく伝えることが私たちの仕事だ」

反骨の地

まもなく人口が７０万人を割る高知県で続く反原発の叫びはなにゆえなのか。反窪川原発闘争には地元紙の記者としてかかわり、最初に紹介した書籍をすべて編集してきた者として、高知県民に熱く息づく反権力の魂を誇らないわけにはいかない。

反原発の叫びは出版にとどまらない。「３・１１を忘れない！こうちアクション」のデモ行進は絶えることなく続いている。参加者の思想原理は間違いなく「脱原発・反原発・原発ゼロ」であり、「台地を愛して共に生きていこう」という島岡の思想と座標軸に共鳴してきたからにほかならない。

高知県は政治学的に非常に面白い土地柄を持つ。衆議院選挙では５議席の中選挙区時代、自民２、野党３の結果を生み、野党の中には共産党の議席もあった。さらに、小選挙区に突入後も３選挙区中１つを共産が奪取したこともある。全国の県庁所在都市で最長の４０年以上にわたる「革新市政」を継続していたのは高知市だ。その革新市政を支えた思想原理は「市民の心を心とする政治」であり、政策的には「人々が心一つにできる反戦・平和・反原発を守り抜くこと」（元・高知県総評議長、国澤秀雄）だった。

１９８４年、高知県議会で原発推進決議がなされたとき、当時、社会党高知県本部委員長だった栗生茂也は「高知県の反原発の炎は燎原の火のごとく高南台地（窪川）を包む」と反対討論で叫び、傍聴席の人々の心を振るわせた。

それからすでに３５年。高知の反原発の炎は決して絶えない。（文中敬称略）

（あしわ　きよし＝元・高知新聞記者、元・全国新聞社出版協議会代表幹事）

＊

※書籍に関する問い合わせは足羽（あしわ）まで。０９０－６２８１－０４１６

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率８％）表示です。

『いま、言わねば －戦後編集者として』●松本昌次著

埴谷雄高、花田清輝、富士正晴、竹内好、丸山眞男、木下順二、井上光晴等の名著の多くを手がけた伝説的な「戦後編集者」の遺言集。これまで戦後文学者や戦後思想家の伴走者として、「戦後」を創造し先行し体現した上記の人たちの証言者、いわば語り部に徹していた著者が、今のこの国の惨憺たる現状に黙っていられず、時々刻々と近づいてくる自身の寿命を見つめながら、この破廉恥でモラルハザードな日本の状況に平易な言葉で異議申し立てを述べ続ける。このままでは死んでも死に切れないと、まるでそれが「戦後」に生きた者としての最大で不可欠な責任と使命であるかのように。　この全身編集者がこだわり続けた「戦後」とは、「戦後の継続」「戦後精神」「戦後責任」であり、本書のどの文章もすべてこの「戦後」から生まれ出たものである。わたしたちは、著者が全身で訴えたこの「戦後」を継承するためにどうすべきか、いかにあるべきか、それを根底から考えさせ見つめ直させる一冊である。

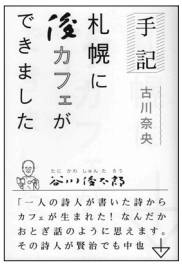
◆ 1,944円・四六判・190頁・**一葉社**・東京・20190315刊・ISBN9784871960762

『敗者の歴史』●伊東祐朔著

お家維持のために息子兄弟を徳川と豊臣に分かった信州真田家のことはよく知られるが、同様の選択をした日向国飫肥（おび）藩伊東家の運命を知る人は多くないだろう。豊臣方に与した家臣団は、現在の岐阜県恵那市北西部の山深い飯地（いいじ）に落ち延びた。幸いにも、鎌倉時代からの地頭であった苗木藩遠山家にかくまわれ、農民に身分を替え、ひっそりと江戸時代を生き延びた。隠棲当初、山林原野を開拓開墾し、田畑を確保した。それには飫肥藩伊東家から出た天正遣欧使節伊東マンショが伝えた西洋技術が大きな力を発揮したという。主家からも密かに支援を受けていたのである。武家としてのプライドを失わず、医薬の知識を地域に役立て、陰ながら苗木藩と尾張藩の山論調停にも尽くした。著者はその末裔で、本書は江戸時代を中心に、戦後のＧＨＱ政策による家衰退の様子をも踏まえ、350年の苦難の歴史を、古文書解説を交えながら小説仕立てで描いた物語である。

◆ 1,200円・Ａ５判・200頁・**垂井日之出印刷所**・岐阜・20190101刊・ISBN9784907915100

『手記　札幌に俊カフェができました』●古川奈央著



“山あり谷あり大地あり”で始まる札幌開成高校校歌。これを作詞した谷川俊太郎の私設記念館的なカフェが2017年5月に札幌にオープンした。著者は幼い頃から詩に親しみ、同校の卒業生として記憶に留めてはいたものの、谷川ワールドにハマったのは90年代のCMコピーがきっかけ。高校の50周年記念式典で来道した本人と話す機会を得て、音楽やグッズともコラボする柔軟性にいつしかこれらを一堂に集めた“場”をつくりたいと願うようになった。それを実現させる過程が綴られた本書には人との出会いの大切さや夢を叶えるヒントがたくさん詰まっている。築百年近く経つ歴史的木造建築物の二階にあるカフェには閲覧可能な詩集や絵本など四百冊以上が並べられ、底や表面に詩が書かれたカップでお茶を味わえる。イベントも多く行われ、文化の発信地となっているのは帯文を寄せた谷川俊太郎の願いでもある。“奇跡のような広がり”を体験できる空間には優しい時間が流れている。

◆ 1,512円・四六判・206頁・**ポエムピース**・東京・20190226刊・ISBN9784908827518

『気づきの付箋 －警察実務の不易流行』●一瀬裕文著

福岡県警の刑事部門の要職を歴任してきた著者が、長年の警察実務を経験する中で感じてきた、仕事を進める上でのヒントを一冊の本にまとめました。サブタイトルの「不易流行」が示すとおり、新しい様々な知見を取り入れつつも、変えるべきでないところは変えない、その姿勢を大事にしています。新しい技術を取り入れ若手の心を気遣いつつも、昔からの聞き込みを中心とした捜査が今も事件解決の糸口に大きく役立っていることは、本書に挙げられたいくつもの事件解決のケースからもわかります。そして粘り強さや労を惜しまずやれることをやる態度など、気持ちの部分は時代が変わっても不変といえるでしょう。また未経験の仕事に異動になった時の心構えや心が沈んだ時の気分の切り替え方など具体的なアドバイスもあり、警察官でなくとも教えられるところがあります。また警察実務の実例からは、日頃一般市民のうかがい知れない刑事捜査の裏側も覗くことができます。

◆ 1,728円・四六判・283頁・**春吉書房**・福岡・20190329刊・ISBN9784908314070

『信濃芋川一族 －芋川越前守親正』●志村平治著

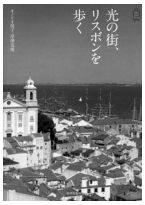
戦国期、北信濃では上杉氏と武田氏とが土地の領有をめぐって熾烈な抗争が繰り広げられた。そのため在地の中小豪族（国衆）たちの多くはその影響をもろに受けた。例えば真田氏。小説やドラマなどでおなじみだ。本書で登場する芋川氏もそうした弱小領主のひとつである。村上氏、武田氏と主人を変えながら、親正の時代、武田滅亡後の天正10年（1582）に武田氏の旧領川中島四郡を給与された織田信長家臣・森長可に対し一揆を起した「芋川の乱」が、芋川氏が最も輝いていた瞬間だろう。以後、上杉景勝に従属して乱世を生き抜いていく。江戸時代、後世名君として知られる上杉鷹山が行った藩政改革に反対した首謀者の一人・芋川延親により苗字断絶となる（「七家騒動」）が、先祖親正の功績によりすぐに家は再興できたという。本書の豊富な史料を駆使しながらの考察は、一族の歴史にとどまらず戦国期から近世にかけての上杉氏とその周辺の歴史を調べる上でも必読すべき書だ。

◆ 2,160円・Ａ５判・191頁・**歴研**・東京・20181225刊・ISBN9784865480757

売行良好書　期間：2019年3月15日～4月14日

［出荷センター扱い］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『図説１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2,500円・みんなのデータサイト出版　(2)『学校と先生』1,080円・ナナロク社　(3)『大学による盗骨』1,944円・耕文社　(4)『よみきかせのきほん』810円・東京子ども図書館　(5)『光の街、リスボンを歩く』1,620円・書肆侃侃房　(6)『子どもと楽しむ季節のスープ』1,620円・今井出版　(7)『ショウコの微笑』2,700円・クオン　(8)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1,944円・アスク・ヒューマン・ケア　(9)『やおいかん　熊本地震』1,944円・弦書房　(10)『本づくりこれだけは　改訂４版』1,296円・出版メディアパル　(11)『朝鮮通信使と彦根』1,944円・サンライズ出版　(12)『古書古書話』2,376円・本の雑誌社



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『本屋大賞　２０１９』600円・本の雑誌社　(2)『東京かわら版　４月号』650円・東京かわら版　(3)『古書古書話』2376円・本の雑誌社　(4)『本の雑誌　４３１号』720円・本の雑誌社　(5)『高尾山登山詳細図全１１２コース』972円・吉備人出版　(6)『東丹沢登山詳細図全１３０コース』972円・吉備人出版　(7)『昭和プロレスマガジン　４８』1000円・昭和プロレス研究室　(8)『北海道日本ハムファイターズオフィシャルガイドブック　２０１９』1080円・北海道新聞社　(9)『図説・１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2500円・みんなのデータサイト出版　(10)『古墳人、現る』1620円・上毛新聞社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『図説・１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2500円・みんなのデータサイト出版　(2)『短歌タイムカプセル』1620円・書肆侃侃房　(3)『私と鰐と妹の部屋』1404円・書肆侃侃房　(4)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(5)『こちら公立鳥取環境大学環境学部です！』1296円・今井出版　(6)『新版 高尾山登山詳細図 全１１２コース』972円・吉備人出版　(7)『大学による盗骨』1944円・耕文社　(8)『芭蕉布物語』1620円・榕樹書林　(9)『出雲王国とヤマト政権』2430円・大元出版　(10)『奥多摩登山詳細図（西編）』950円・吉備人出版　(11)『魂の新聞』2500円・琉球新報社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

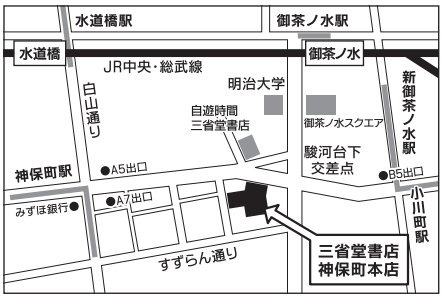
▼秋田県出身のフォトジャーナリスト高橋智史さんが15年にわたるカンボジア取材の集大成としてまとめた写真集**【RESISTANCE カンボジア 屈せざる人々の願い】**（ISBN978-4-87020-405-8／本体2400円／秋田魁新報社）が、第38回土門拳賞を受賞しました。

高橋さんにはすでにカンボジアのルポルタージュである【素顔のカンボジア】（978-4-87020-351-8／本体1800円／秋田魁新報社／2014年刊）という著書があります。土門拳賞は日本の写真家である土門拳の業績をたたえ、1981年に毎日新聞社が設立した写真賞です。〈カンボジアの強権政治に屈することなく闘い続ける人々に迫ったドキュメンタリー。監視される日常生活、抗議の現場、デモ行進の最前線で、自身の安全を顧みず、声を挙げ、祈り、仲間を助けあう市民の姿を追った。これらの写真は全世界に配信され、知られざるカンボジアの現況と圧政に負けず闘う人々の姿を世界に伝えた〉（土門拳賞事務局による受領理由から）。〈紛争が続いたカンボジアは、1990年代の和平協定と国連管理下での総選挙を経て、民主主義や人権が尊重される社会になるはずだった。しかし、クーデターや最大野党の解党を経て、1980年代の一党支配が再来した。高橋智史さんは、写真を通して、15年間のカンボジア現代史の最深部を世界に示してくれた。土地収奪事件の被害者であり活動家のテップ・バニーさん、2016年に暗殺されたケム・レイさんの写真の衝撃は無論のこと、圧政に抗う子どもたちや高齢者、花を持ち武装兵士に対峙する女性たちの姿は胸を打つ。そのすべての写真が心に語りかけてくる。〉

（熊岡路矢氏－日本映画大学特任教授、カンボジア市民フォーラム共同代表－による帯推薦文から）

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。